

大船渡市の助産師伊藤怜子さんは、被災地で孤立しがちな子育て中の母親を支援するため、仲間の助産師らとNPO法人「こそだてシツブ」を立ち上げた。震災から7カ月後、母子の交流の場ママサロンを始めた。

初回のサロンは母親たちがお互いの無事を確認する場になった。被災後初めて再会したというママ友た

ち。「家が流された」「パパが亡くなった」とそれぞれが状況を話した。同じ境遇に置かれた者同士、それまで胸に押し込んでいた悲しみがこみ上げ、言葉を詰まらせる人もいた。

伊藤さんたちは傾聴に徹した。「一番大事なのはお母さんたちが癒やされること。言葉が出てくるのをひたすら待ちました」

母親から寄せられたのは「育児を相談できる人がいない」「交通が不便でサービスを受けられる場所まで行けない」「子どもが落ちているガラスの破片を手取るので外で遊ばせられない」。孤立した育児の状況が分かってきた。伊藤さんは、こうした場に来られない母親たちが心配だった。「本当に大変なお母さんたちは前向きな気持ちになれず、外に出ることすらできないのでは」と思った。

(角津栄一)



ママサロンに集まったお母さんたち＝伊藤怜子さん提供